

只見川支流木ノ根沢

大竹 尚子

■山行年月日:2020 年

10月17日～18日

■メンバー:大竹幹衛、佐藤利伊、斎藤美和子、杉崎圭洋、小沼充範、石川貴大、大竹尚子、増田寿代(わらじ)

■コースタイム:

17日 入叶津ゲート8:48～木の根沢橋
10:25～10m2 段の滝 12:25～Co650m
付近テント場 13:05

18日 テント場 7:35～二俣 8:00～
Co700m付近二俣 8:30～八十里峠 9:
50～10:10～松ヶ崎 10:50～11:15～国
道 13:30～13:40～入叶津ゲート 14:40

17日(土)朝から弱い雨が降っていた。また、強い寒気が南下していて吐く息が白いほど気温が低い。中止も考えたが、只見の雨は弱く午後には止むとの予報であった。6:00若松を出発し、7:40蒲生岳登山口の駐車場で増田さんと合流。遠いところお疲れ様です。小沼君と石川君は入叶津ゲートで合流。ちょうどスノーシェッドがあるので、雨の当たらないところで準備ができた。ラッキー。

弱い雨の中出発。土曜日でも工事をしていたため、関係車両が通過する。トンネルは暗く音も反響して大きく聞こえるので、トラックなどが通過すると怖いくらいだ。



トンネルの中で休憩

最初の休憩はほぼ1時間歩いたところにあるトンネル?で休憩。この場所は新潟県境周辺の工事現場から土砂を運び込んで、トンネルの上に積み上げている。来るたびに様子が変わる国道289号線であった。そこから2つの長いトンネルをくぐると、木ノ根橋となり木ノ根沢の左岸へ踏み跡を辿って降りていく。周辺はすばらしいブナ林で、早速ヒラタケ発見。その後、オリミキ、ナメコを見つけ夜の食糧を確保する。やっぱりキノコを採るならブナの倒木です。



浸食された滝になって流れ込む支流



2段 10mの滝

その後、木ノ根沢に降り休憩を取りながら進む。雨もほとんど止んでいた。と、12時過ぎに2段の滝が出て来る。左岸にロープがぶら下がっているのをそれを利用して高巻く。

そろそろ本流と分かれて八十里峠へ向かう分岐に近づいて来た。テント場はその周辺しかないと思っていたので、物色しながら行くと沢が右に曲がって流木が積み重なっているところがあり、そのすぐ先は砂地になっていた。ほ一さんが「ここだな」と、絶好の泊り場を発見。天気予報によると今夜の降

水確率は0%であるため、流れのそばでも心配ない。さすがほ一さん、この道40年である。

みんなで、整地してテントを張り流木を集め、泊まりの準備は進んで行った。みんなで作ると早いなあ。今回の食糧は増田さんをお願いした。具が3種類もある春巻がメインであった。どんどん巻いてどんどん揚げる。人数が多いので忙しいです。もちろん、キノコ汁も大量にありました。焚火が燃え上がり、そばにいと熱いくらいであった。お酒も入り、それぞれが持ち寄ったつ

まみを回し、楽しい夜は更けていった。ほ一さんはいつものように「お先に」と言ってテントに潜り込んでいった。小沼さんや増田さんは、火を眺めながら静かに遅くまで起きていたようだ。大量の薪は翌日にはきれいになくなっていった。



火が熱い！

18日(日)5:30起床とする。雨は昨日の午後には止んでいたし、冬用のシュラフを持ってきたので非常に快適な夜であった。朝食はクッパ、生卵入りである。増田さん、ありがとう。



8mの滑滝

今日は段々晴れてくるということで、期待して八十里峠を目指す。滑滝がかかる本流を右に見て、左俣へ進む。こちらにも8mくらいの滑滝が出てきた。ノーロープで登る人、左から巻く人、ロープをもらって登る人。様々でした。みなさん、ご安全に。

その先の二俣には両側から滝が流れ込んでいて、右の滝を小さく巻いて登った。分岐を過ぎるたびに水量は少なくなり、沢の中にある倒木でキノコを採りながら進む。以前、発見した峠の茶屋の水場を探すと、石組は残っていたが前のように豊富に水が湧いていない。仕方がないのでそっとペットボトルに水を汲んだ。そこから少し藪を漕ぐと街道に飛び出した。みんなはすでに「木ノ根峠茶屋跡」などの丸い石の碑がある峠で休んでいた。数年前のGWに登った黒姫が樹間に見え懐かしかった。また、あのブナに囲まれたテント場に行きたいなあ。風が越後側から吹いてきて少し肌寒い。石川



標高700m付近の滝

君がスマホでシャッターが切れるカメラで集合写真を撮って下山することとする。

峠からは太陽も顔をのぞかせてきて、明るいブナ林をにぎやかに下った。途中で見つけた倒木にはブナハリタケが大量にあり、幹衛さんたちは収穫に余念がない。美和子さんも目ざとくキノコを見つけている。松ヶ崎では会津側の展望が開け、正面に平石山が堂々として見えた。以前、小沼君と平石沢を登って山頂に立ち、滝の沢を下ったことがある。「中の又山はどれ?」と聞くと、ここからは見えないという。平石山の奥にある立派な山は赤崩山でしょうか?(どちらも地図には名前がない。)



日差しが戻って来た松ヶ崎にて

峠道は流れ込む沢のアップダウンを繰り返したり、湿原のぬかるみに足を取

られたりしながら標高を下げていく。途中の休憩で、河井継之助の映画「峠」が完成するらしいと石川君から聞いた。ぜひ見てみたいものだ。

ようやく国道に到着し、大休止。ここから約1時間のアスファルト道歩きで、

足裏に大きなマメができてしまいました。木ノ根沢は秋にふさわしく穏やかで歴史を感じる心に残る山でした。



八十里峠（木ノ根峠）にて

